

2026年3月期決算 ご説明資料

2026年6月1日



Standard Market | 5013

INDEX

会社概要 Company Overview	3	2027年3月期 業績予想 Forecast	24
会社概要	4	中東情勢の当社事業への影響	25
業績推移	5	2027年3月期 業績予想（連結）	26
ユシログループ 国内外ネットワーク	6	営業利益（連結）増減要因分析	27
ユシログループの事業ポートフォリオ	7		
ものづくりに欠かせない金属加工油剤	8	中期経営計画の進捗状況 Progress	28
既存事業の進化：クレンリネス	9	経営目標	29
新領域の開拓：キー・マテリアル	11	基本方針の進捗	30
		基本方針① 収益基盤の安定 航空機向け販売の拡大	31
		基本方針② 注力分野での事業推進 モノづくり	32
		基本方針② 注力分野での事業推進 クレンリネス	33
		基本方針② 注力分野での事業推進 キー・マテリアル	34
		基本方針③ サステナビリティの推進	36
		財務・投資戦略	38
		企業価値向上に向けた取り組み	39
		PBR改善に向けた取り組み	40
		株主還元	41
2026年3月期 決算業績概要 Results	13	参考資料 Appendix	42
決算サマリー	14	財務データ推移	43
2026年3月期 実績（連結）	15		
2026年3月期 業績概要（連結）	16		
営業利益（連結）増減要因分析	17		
セグメント別売上高	18		
セグメント別営業利益	19		
拠点別売上高・営業利益増減	20		
貸借対照表（連結）	21		
キャッシュ・フロー計算書（連結）	22		
株主還元	23		

会社概要



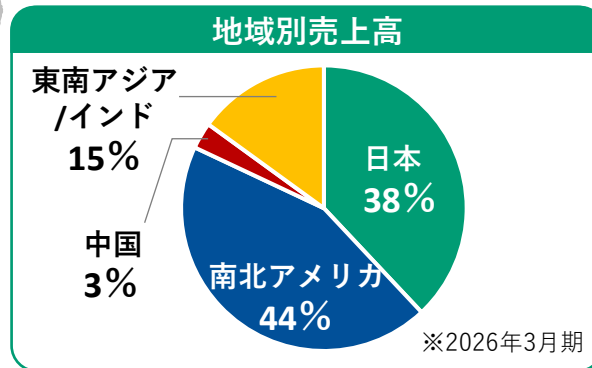
会社概要

社名	株式会社ユシロ (英文名称：Yushiro Inc.)
本社	東京都大田区千鳥2丁目34番16号
代表者	代表取締役社長 有坂 昌規
創立	昭和19年7月24日
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・金属加工油剤(切削油剤、圧延油剤、引抜油剤、プレス油剤、ダイカスト離型剤、さび止め油剤、洗浄剤等)の製造・販売 ・ビルメンテナンス製品(フロアメンテナンス用ワックスおよび剥離剤、洗浄剤、メンテナンス用機器)の製造・販売
資本金	4,249百万円
連結子会社	<p>【国内】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・トランスケム株式会社(旧ユシロ運送株)(製品輸送) ・ユシロ・ゼネラルサービス株式会社(倉庫管理業務) <p>【海外】</p> <p>北米、南米、アジア地域に合計9社のネットワークを有しています</p>
従業員数	単体：362名 連結：862名 (2026年3月末現在)

海外ネットワーク詳細

地域	国	社名	住所
北米	アメリカ	YUSHIRO MANUFACTURING AMERICA,INC.	米国インディアナ州 シェルビービル市
		QualiChem,Inc.	米国バージニア州セイラム市
	メキシコ	YUSHIRO MEXICO S.A.DE C.V.	メキシコ国 グアナファト州
南米	ブラジル	YUSHIRO DO BRASIL INDUSTRIA QUIMICA LTDA.	ブラジル国 サンパウロ州カサパバ市
アジア	タイ	YUSHIRO(THAILAND)CO.,LTD.	タイ国チョンブリ県
		Siam Cee-Bee Chemical Co., Ltd.	タイ国チョンブリ県
	マレーシア	YUSHIRO MALAYSIA SDN.BHD.	マレーシア国 セランゴール州プジョン
	インドネシア	PT.YUSHIRO INDONESIA	インドネシア国 西ジャワ州カラワン県
	インド	YUSHIRO INDIA COMPANY PRIVATE LIMITED	インド国 ハリヤナ州グルグラム
	ベトナム	YUSHIRO VIETNAM CO.,LTD.	ベトナム国ホーチミン市 *非連結子会社
	中国	上海尤希路化学工業有限公司	中国上海市宝山区 *持分法適用会社
		如東尤希路化学工業有限公司	中国江蘇省南通市如東県 *持分法適用会社
	台湾	三宜油化股份有限公司	台湾台北市 *持分法適用会社
	韓国	汎字化学工業株式会社	韓国ソウル特別市 *持分法適用会社

- 子会社（国内2社、海外9社）
- 持分法適用会社（海外4社）
- 技術提携会社（海外3社）



自動車分野の金属加工油剤事業を基盤に、非自動車分野や新たな事業領域を拡大



モノづくり
(金属加工油剤事業)

自動車分野

モノづくり
(金属加工油剤事業)

非自動車分野

クレンリネス

- ガラスコーティング剤
- 車両向け製品
- 洗濯槽クリーナー

キー・マテリアル

- CD誘導体
- 光触媒

新規事業



クレンリネス

心地よく、安心できる空間の実現

コーティング展開
車両展開
洗濯槽クリーナー販路拡充

- ガラスコーティング・車両・洗濯槽クリーナーに注力
- 海外販路など積極的に開拓

方向性	戦略	現状評価
ガラスコーティング剤拡販	施工会社との協業	ショッピングセンターや鉄道車両の床面に展開中
ビルメンテナンス隣接市場の開拓	オフィス／車両／住居向け販路拡充	車両向け製品を展開中
OEM先との連携	店舗販路の維持・創出	洗濯槽クリーナーの販路拡充 マレーシア、ベトナムでの販売開始

既存事業の進化：クレンリネス

- 床用ガラスコーティングの展開
(剥離可能ガラスコーティングを開発)

電車 (車両の床)



耐傷性	重歩行エリアに 黒パッドで20往復	影響なし	
	アルコールの影響 エタノール滴下15分後	影響なし	
耐薬性	塩素消毒の影響 漂白剤滴下15分後	影響なし	
	トイレの飛び散りに アンモニア滴下15分後	影響なし	

注 施工場所やその他条件により異なる場合があります。

- レール・車輪用潤滑材の開発
(鉄道総合技術研究所との共同研究及び開発中)

ユシロオリジナル レール・車輪潤滑材

騒音を減らし、レール寿命を延ばす。

レール摩擦調整材 **ノイズレスレール®S**

レール波状摩耗 きしり音の抑制
適正摩擦係数を維持する設計



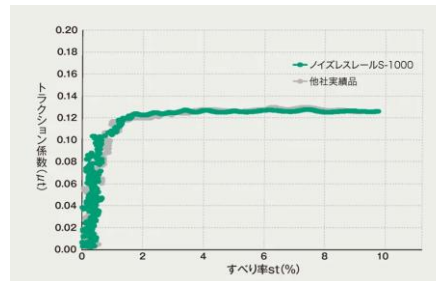
性能試験データ

評価試験は公益財団法人鉄道総合技術研究所に委託しました。

車輪/レール摩擦特性評価

[2円筒転がり接触試験]

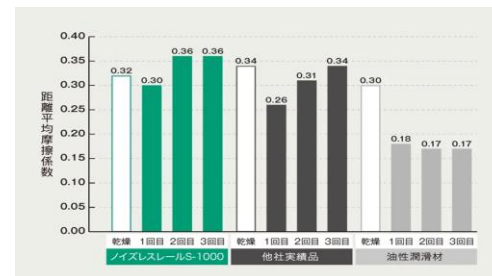
車輪/レール間介在時の
摩擦特性評価



ブレーキ性能評価

[定置ブレーキ試験]

車輪/制輪子間に介在時の
ブレーキ性能への評価



摩擦特性は他社実績品と同等です。 ブレーキ性能に及ぼす影響は小さいです。空転・滑走が発生しにくい設計。

キー・マテリアル

機能性材料で
サステナビリティ材料のパイオニア

CD誘導体展開
CD誘導体生産体制
ビタミンB2光触媒（光アクション）新用途

- 製造体制を整備し、様々な供給形態へ対応

方向性	戦略	現状評価
ビタミンB2光触媒（光アクション）の隣接分野への展開	新規隣接分野への展開	除菌消臭剤の「ぴきゃみん」シリーズを、食品工場へは防カビ施工剤を、各々展開中
CD誘導体の用途・技術開発	シクロデキストリンの包接機能を軸とした素材、用途開発	多分野からの引き合い顧客での適用評価継続中
柔軟な生産体制	受注～製品製造～出荷納品までの社内システム、スキームの最適化	スケールアップ中 新ラインの計画具体化

新領域の開拓：キー・マテリアル

● 高純度シクロデキストリン誘導体の大量合成に成功

製造設備の強化により、今まで困難だったβ-シクロデキストリン-6-トシレート(CDTS)の大量合成に成功。(図2)
CDTSの純度90%以上となる高純度のCDTSの量産化を可能にした

β-シクロデキストリン (CD) とは

- トウモロコシ由来の環状の糖化合物質
- 二酸化炭素を吸収する過程を経て生成され、CD生成酵素を用いて合成
- カーボンニュートラルな素材として近年注目されている
- 特徴：立体的に円を描くような構造を持ち中は空洞。環の内側が疎水性・外側が真逆の親水性であるため、特に水中では疎水性の化合物を取り込む(図1)



一般に広く流通しており
消臭剤などに活用

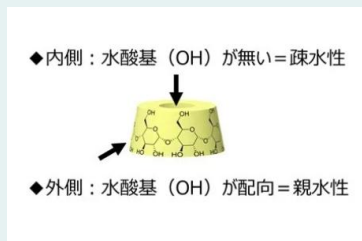


図1：CDの環構造の特徴

CDTS量産化のメリット

トシル基部位を化学反応により多様な官能基へ変換可能

大学研究機関・企業への高純度タイプのシクロデキストリン誘導体の拡販及び需要増への対応

各種CD誘導体の設計・開発に幅広く活用でき、社会実装に向けた検討が可能

量産化によるコスト削減や安定供給が可能

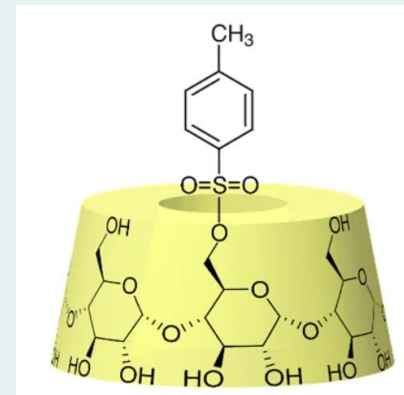
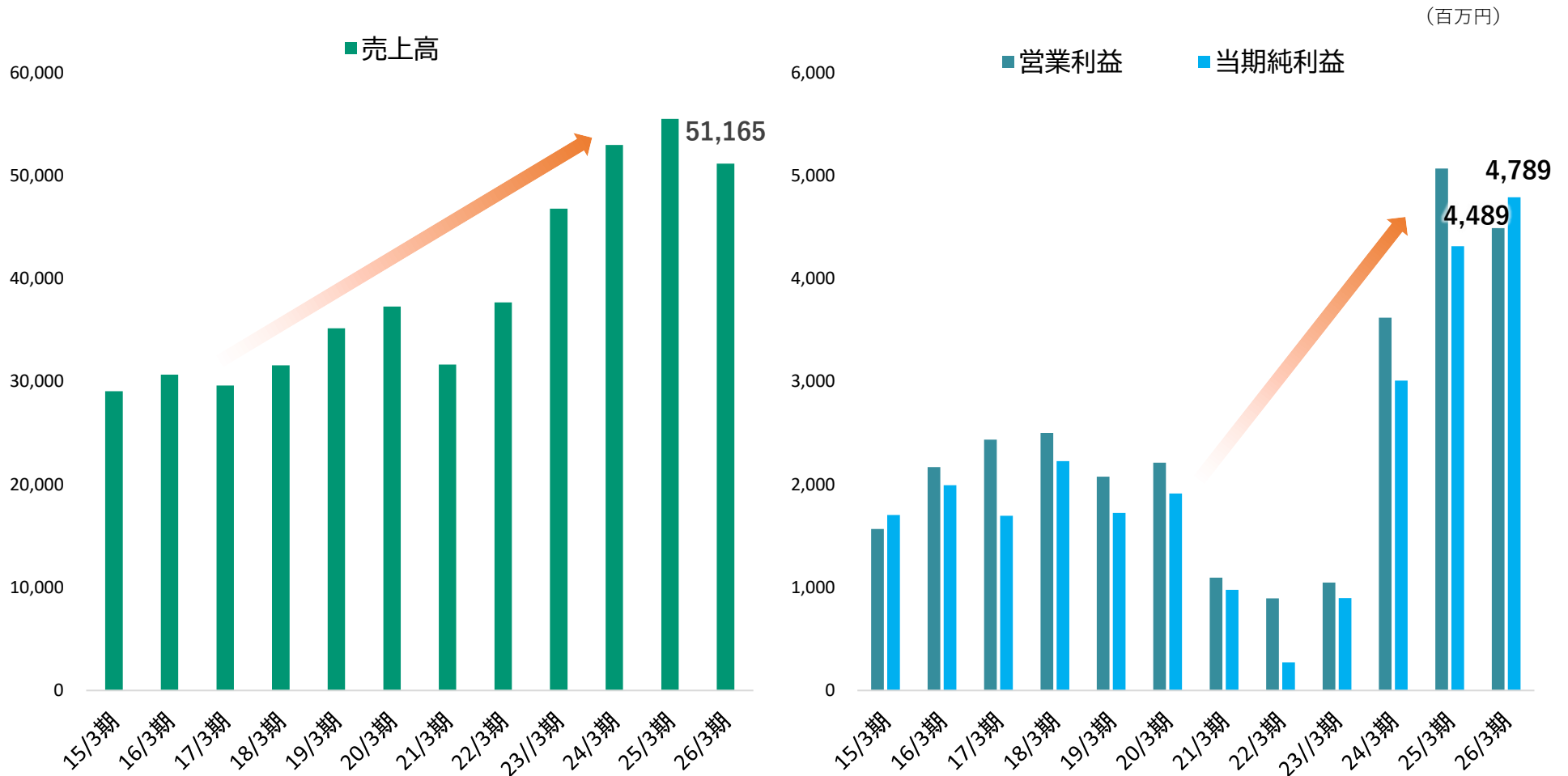


図2：CDTSの化学構造

今後の展望

- 今後も新たな材料開発を目指す企業に向けて、CDTSをはじめとするCD誘導体関連製品を積極的に展開予定
- CDが現用されている食品分野や各種工業用途においても、量産化によるコスト低減や安定供給の観点での貢献を視野に展開を検討

- コロナ禍以降、売上高の拡大とともに収益性の向上が進み過去最高水準で推移



2026年3月期 決算業績概要



- 販売価格改定と拡販を進めるも、中国合弁会社を持分法化したことで売上高が減少
- 利益面は、人件費などの費用増加などもあり経常利益まで減益

売上高

国内及び東南アジア／インド地域は
堅調に推移するも、
中国合弁会社の持分法化により前期比減収

51,165百万円（前期比△7.8%）

営業利益

原材料価格は低下傾向であったものの、
人件費などの費用増加などの影響により
前期比減益

4,489百万円（前期比△11.4%）

経常利益

シンジケートローン更新手数料などの
支払いを計上し、前期比減益

5,671百万円（前期比△7.0%）

親会社株主に帰属する当期純利益

投資有価証券売却益計上により
前期比増益

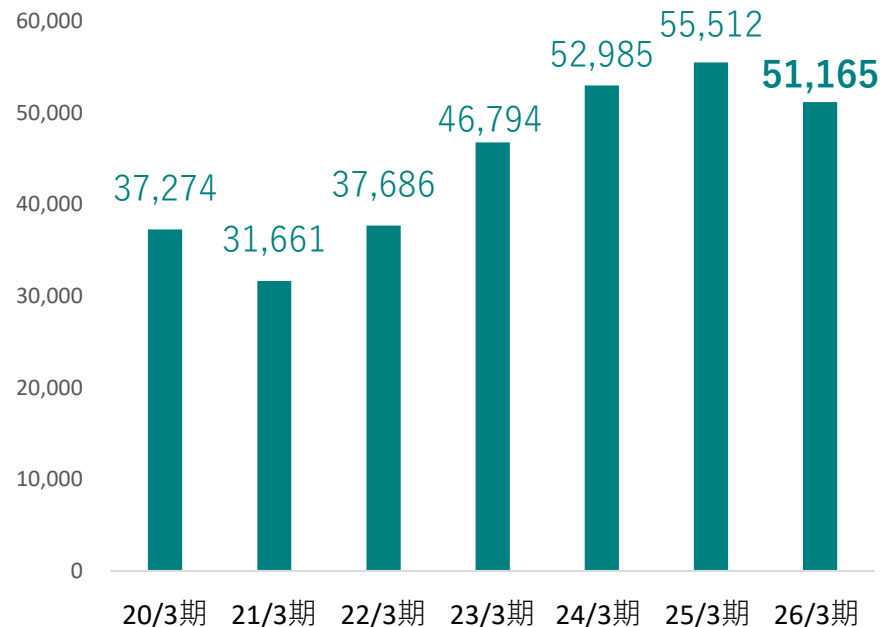
4,789百万円（前期比+11.0%）

2026年3月期 実績（連結）

- 売上高は、原材料価格に追随した販売価格の改定、海外における拡販によりコロナ禍前の水準を大きく上回る
- 営業利益は、コロナ禍からの回復、販売価格改定及び円安による為替の影響により粗利確保で増加

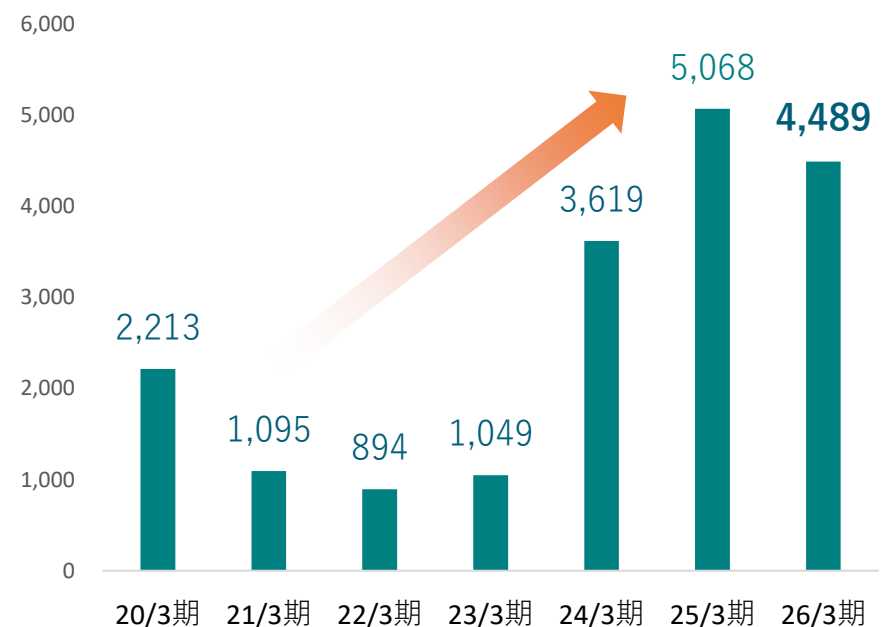
売上高

(百万円)



営業利益

(百万円)



2026年3月期 業績概要（連結）

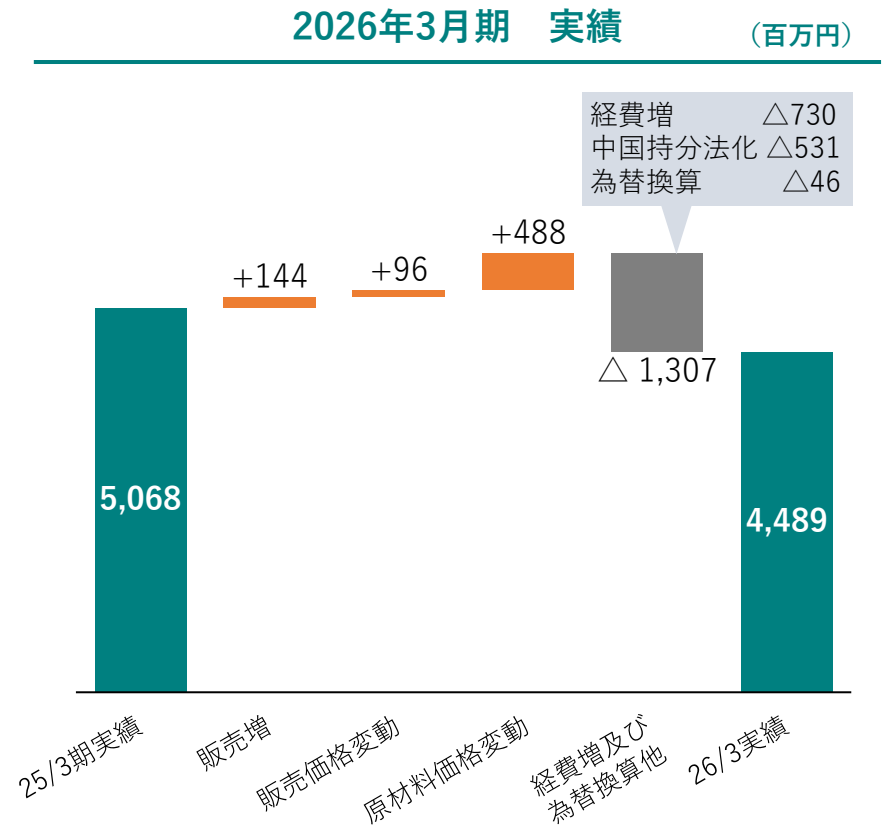
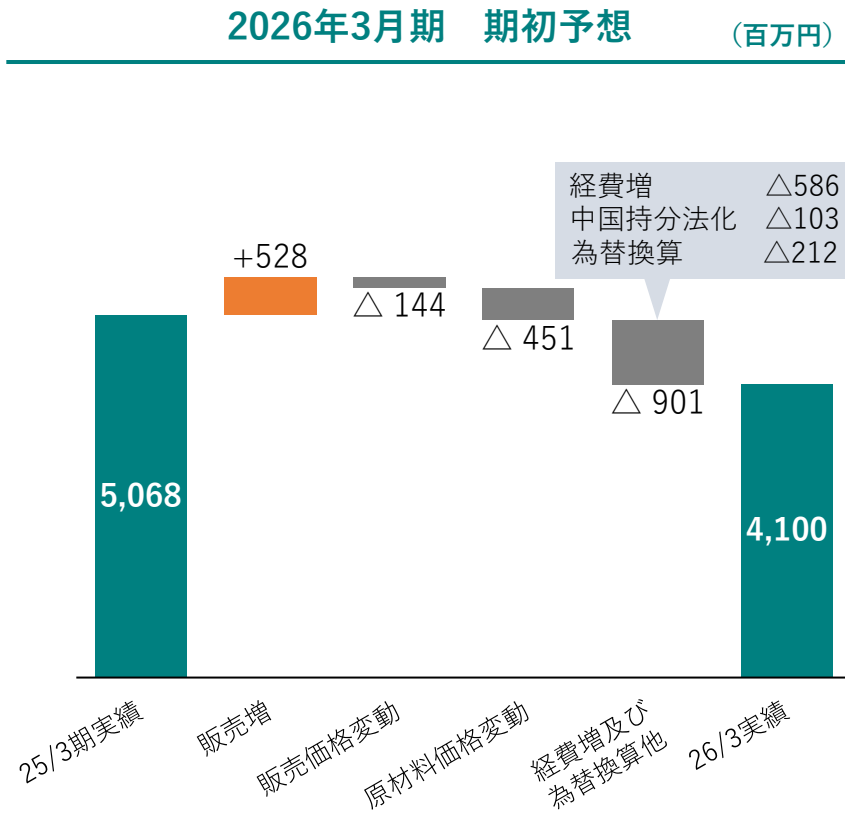
- 売上高は、日本及び東南アジア／インドが堅調も、中国合弁会社の持分法化により減収
- 利益は、原材料価格は低下傾向だったものの、人件費等の費用増加の影響などにより経常利益まで減益

(百万円)	25/3期 実績	業績予想 (5/14発表)	業績予想 (11/11修正)	26/3期 実績	前期比 増減額	前期比 増減率	5/14発表から の増減額
売上高	55,512	55,200	51,200	51,165	△4,347	△7.8%	△4,335
営業利益	5,068	4,100	4,600	4,489	△579	△11.4%	+389
経常利益	6,096	4,700	5,700	5,671	△425	△7.0%	+971
当期純利益	4,315	4,350	4,900	4,789	+474	+11.0%	+424
R O E	10.3%	10.0%	10.9%	10.5%	—	—	—
為替レート	151¥/\$	145¥/\$	148¥/\$	151¥/\$			

営業利益（連結）増減要因分析



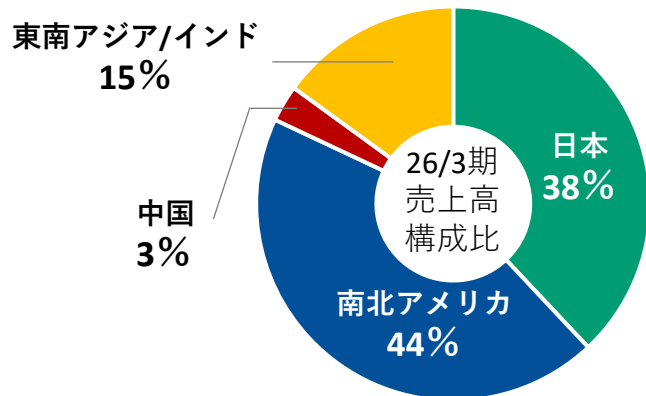
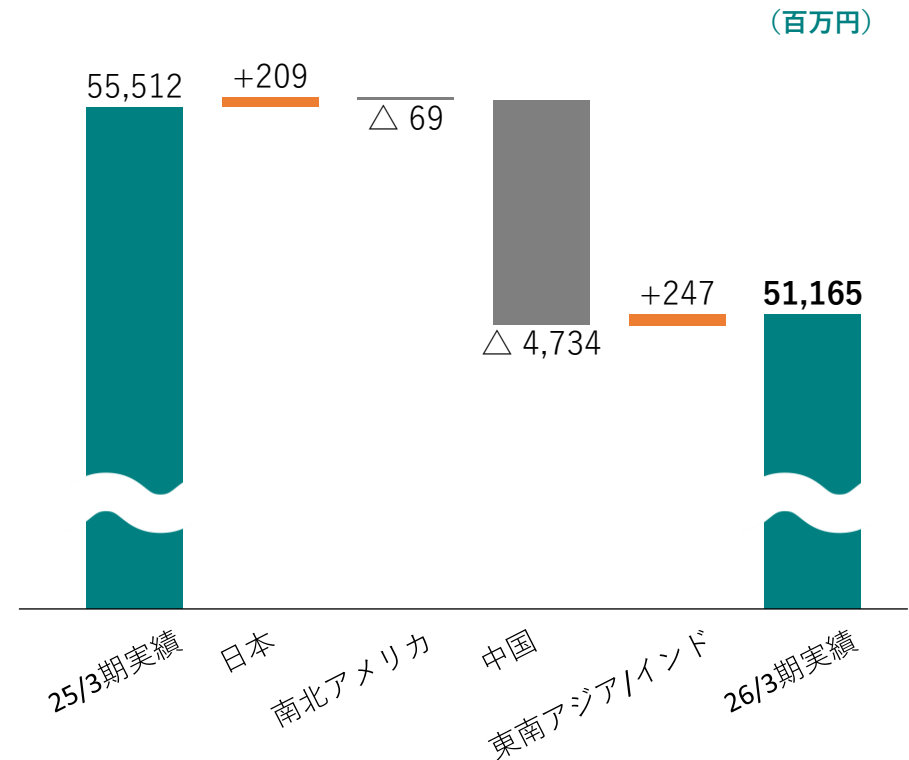
- 販売価格の改定が進展し、原材料価格が低下するも、人件費等の費用増加等で減益。



セグメント別売上高

- 日本及び東南アジア／インドは堅調だったが、中国合併企業の持分法化により減収

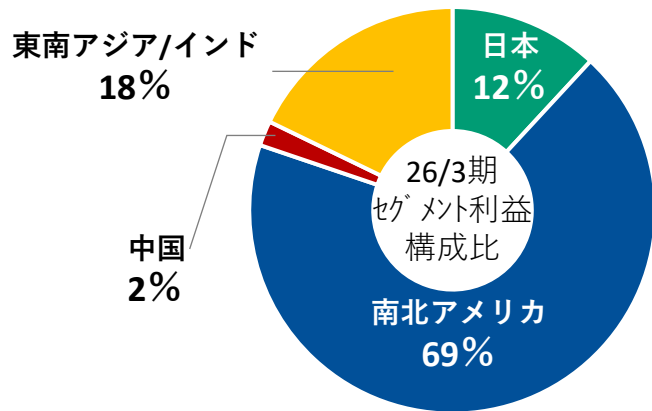
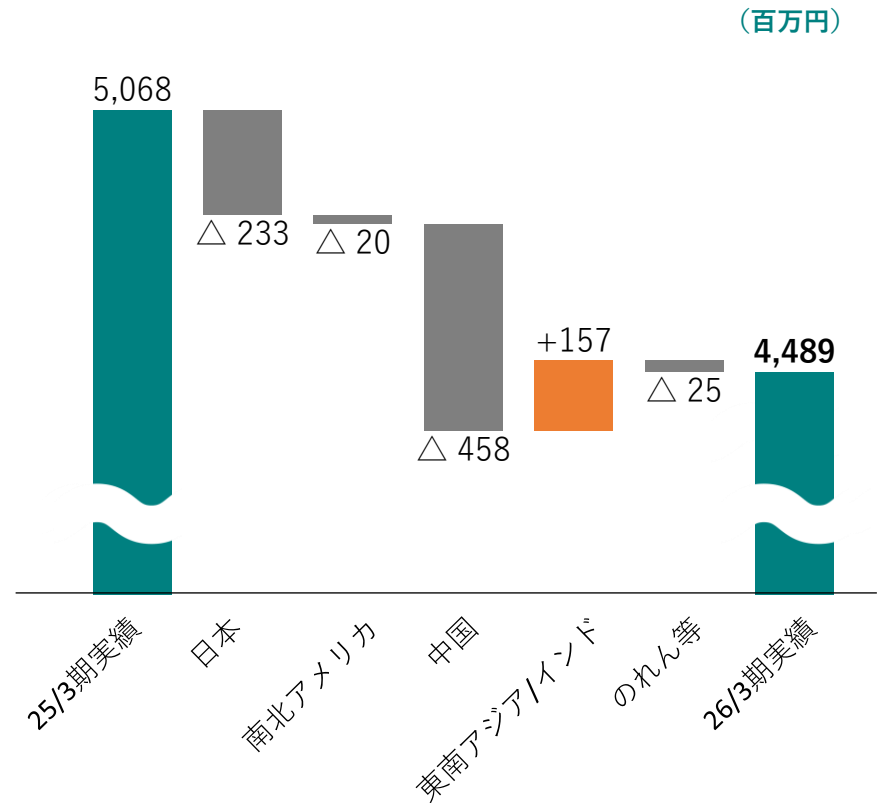
	25/3期 実績	26/3期 実績	増減率
日本	19,433	19,643	+1.1%
南北アメリカ	22,593	22,523	△0.3%
中国	6,220	1,486	△76.1%
東南アジア インド	7,264	7,512	+3.4%



セグメント別営業利益

- 東南アジア/インドは、インドを除き増益
- 中国は、上海ユシロの持分法会社化により大幅に減少

	25/3期 実績	26/3期 実績	増減率
日本	814	581	△28.6%
南北アメリカ	3,476	3,456	△0.6%
中国	538	79	△85.2%
東南アジア インド	768	926	+20.4%



拠点別売上高・営業利益増減

- ユシロアメリカ：関税対策による在庫調整の影響に加え、顧客の減産もあり減収減益
- クオリケム：金属加工油剤、水処理分野ともに拡販が進み増収増益
- タイ：出荷増や原料代替等の原価低減効果で増収増益

(百万円)	拠点別売上高			拠点別営業利益			
	25/3期	26/3期	増減率	25/3期	26/3期	増減率	
日本※	22,087	21,947	△0.6%	661	348	△47.4%	
米国	ユシロアメリカ	6,083	5,586	△8.2%	935	755	△19.2%
	クオリケム	11,936	12,620	+5.7%	1,607	1,855	+15.4%
メキシコ	2,689	2,459	△8.5%	649	585	△9.9%	
ブラジル	2,015	1,941	△3.7%	373	359	△3.8%	
マレーシア	1,851	1,830	△1.2%	215	284	+31.8%	
タイ (YTL/SCBC) ※	2,550	2,996	+17.5%	336	397	+18.1%	
インド	1,757	1,692	△3.7%	99	78	△21.5%	
インドネシア	1,819	1,798	△1.1%	234	266	+13.8%	
中国 (上海/如東) ※	7,710	1,486	△80.7%	622	90	△85.4%	

※単純合算数値

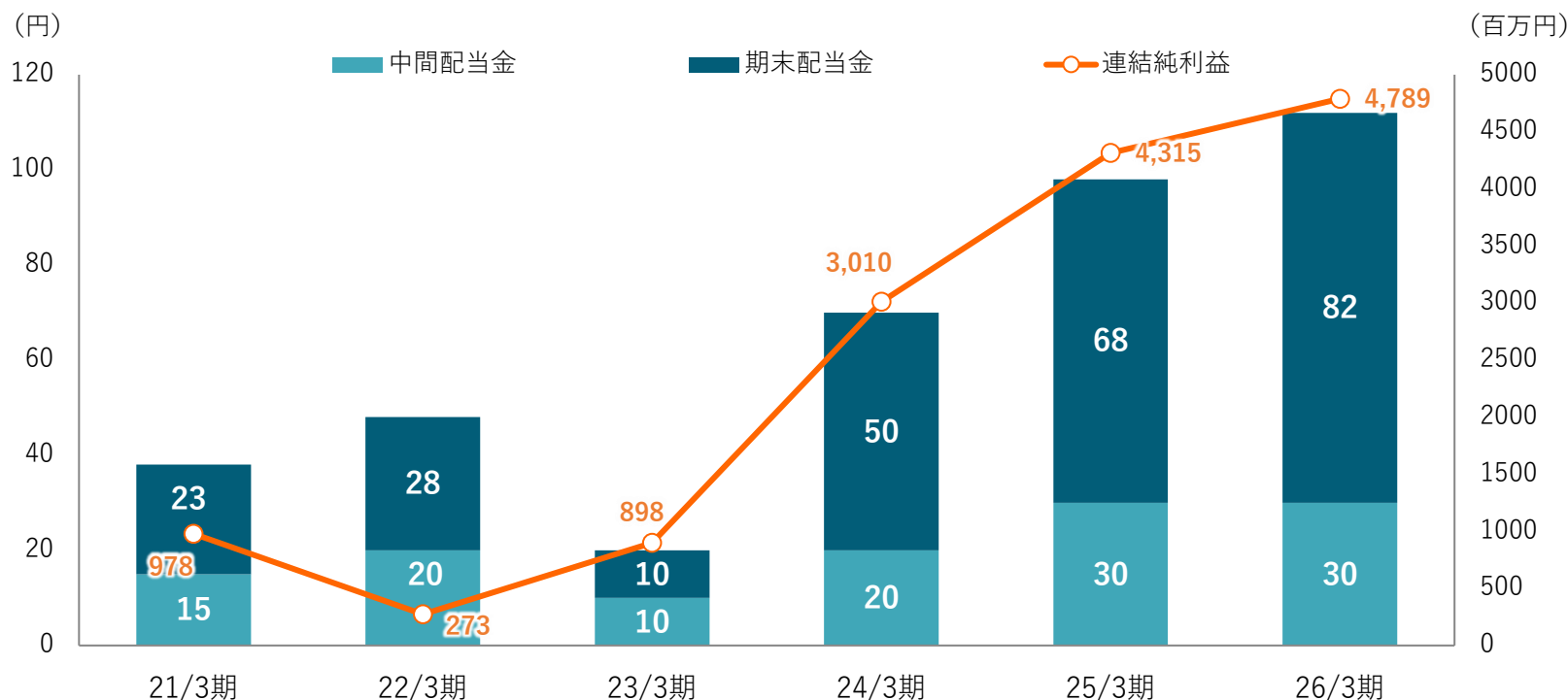
- 資産の増加は、主に中国合弁会社の持分法化による関係会社出資金の増加
- 負債の減少は、主に買掛金の減少
- 純資産の増加は、主に当期純利益の増加に加え、円安による為替換算の影響

(百万円)	25/3期末	26/3期末	差額
資 産 合 計	63,404	64,962	+1,558
負 債 合 計	18,433	17,055	△1,378
純 資 産 合 計	44,970	47,906	+2,936

- 営業CF：営業利益は減少したが、棚卸資産の減少により変動
- 投資CF：投資有価証券売却による収入があったが、有形固定資産取得による支出により変動
- 財務CF：短期借入金の純増はあったが、配当金の支払と自己株式の取得により変動

(百万円)	25/3期末	26/3期末	差額
営業活動によるキャッシュ・フロー	4,805	4,759	△46
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,139	△1,033	+106
財務活動によるキャッシュ・フロー	△2,411	△2,566	△155
現金及び現金同等物に係る換算差額	524	91	△432
現金及び現金同等物の増減額	1,778	1,250	△527
現金及び現金同等物の期首残高	10,981	10,499	△482
現金及び現金同等物の期末残高	10,499	10,610	+110

● 連結配当性向を30%以上を基本方針としており、26/3期の配当金は通期で112円



配当性向 (連結)	52.8%	239.2%	30.3%	31.7%	30.8%	30.9%
純資産配当率 (連結)	1.7%	2.1%	0.8%	2.6%	3.2%	3.2%
1株当たり 配当金	38円	48円	20円	70円	98円	112円

2027年3月期 業績予想



状況が極めて流動的であることから正確に見通すことが困難であり、現時点では業績予想に織り込んでおりません

足元の影響

- 原油由来の原材料の供給不足と価格上昇および物流などのコスト増加
- 既存顧客による先行調達の増加傾向が続く
- 自動車メーカーを中心とした当社製品需要に大きな変化はなし
- 長期化によるマクロ経済の影響は見通せず



当社の対応

- 原材料および各種コスト増に伴う、顧客への価格改定の実施
- 製品出荷数量の平準化および一部制限
- 代替原料への置き換えの推進
- グローバルネットワークによる調達手段の多様化の検討
- 販管費を中心とした経費削減による対応

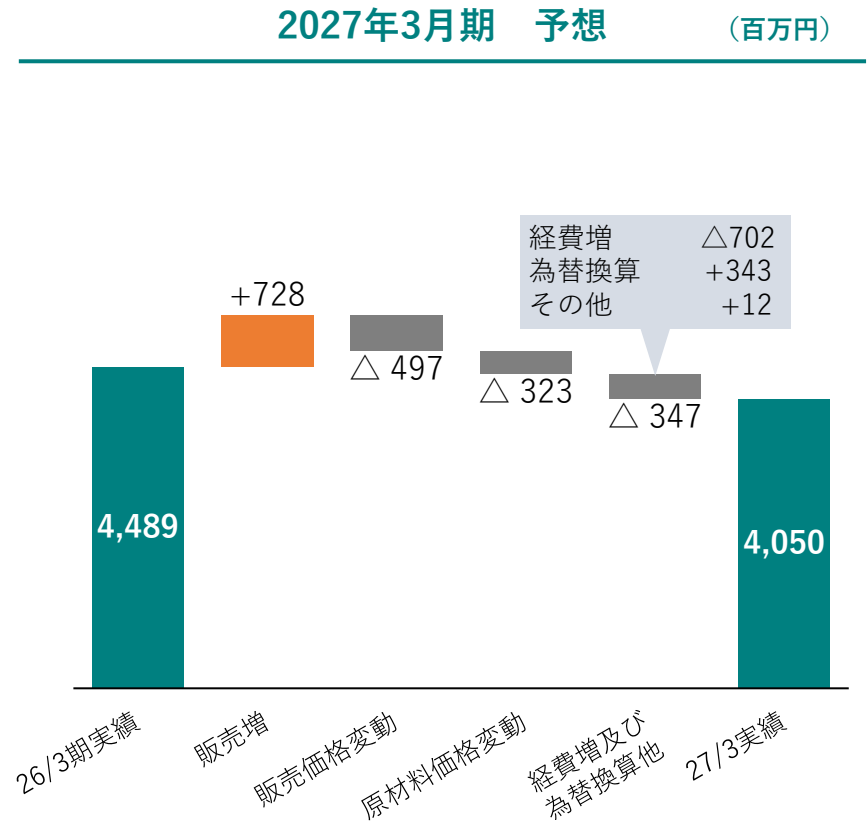
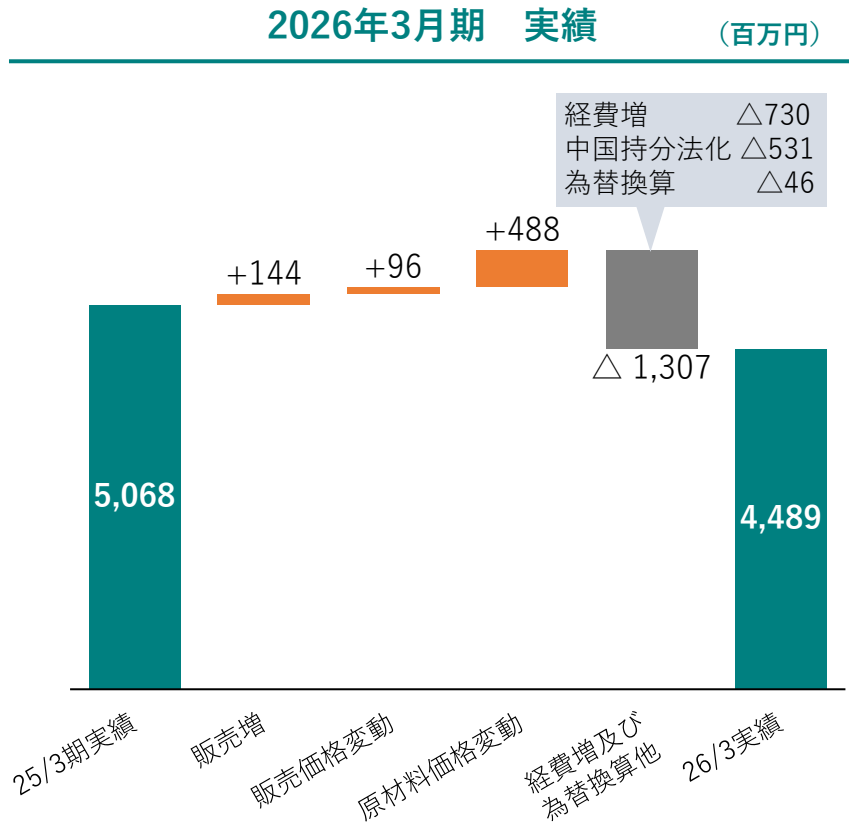
2027年3月期 業績予想（連結）

- 売上高：南北アメリカ、東南アジア／インドでの増収、加えて円安もあり増収予想
- 営業利益：円安ではあるものの、販管費の増加により、減益予想
- 当期純利益：前期は投資有価証券売却益を計上し、今期はその反動で減益予想

	26/3期実績	27/3期予想	前期比	
			増減額	増減率
(百万円)				
売上高	51,165	52,200	+ 1,035	+ 2.0%
営業利益	4,489	4,050	△439	△9.8%
経常利益	5,671	5,150	△521	△9.2%
当期純利益	4,789	3,900	△889	△18.6%
ROE	10.5%	8.0~10.0%	—	—
為替レート	151¥/\$	156¥/\$	—	—

営業利益（連結）増減要因分析

- 27/3期：拡販に努めるが、経費の増加及び原材料価格上昇の影響を見込み減益予想



中期経営計画の進捗状況

EXPLORER 
PLUS

2025年3月期 - 2027年3月期

- 中計2年目は、中国合弁企業の持分法化により減収減益
- 3年目は当初予想の水準維持を狙い、中計の打ち手の成果刈り取り

(億円)	(中計1年目)	(中計2年目)	(中計3年目)27/3期		26/3期との比較
	25/3期実績	26/3期実績	当初予想	5/15予想	
売上高	555	511	600 (64) *	522	+10
営業利益	50	44	50 (4) *	40	△4
営業利益率	9.1%	8.8%	8.3%	8.3%	△0.5%
経常利益	60	56	61	51	△5
当期純利益	43	47	43	39	△8
ROE	10.3%	10.5%	10.0%以上	8.0~ 10.0%	—
為替レート	151¥/\$	151¥/\$	140¥/\$	156¥/\$	—

※ (中計3年目) 27/3期当初予想の () は、連結時に含まれていた中国合弁企業 (子会社) の数値

基本方針の進捗

1

収益基盤の安定

自動車向け

- 売上・営業利益は、計画比円安もあり過去最高更新
- 継続した原価低減活動が功を奏し適切な粗利率水準を確保

航空機向け

- 生産領域以外にもメンテナンスや各種洗浄製品にも拡充
- 航空機OEM各社への認証油プロセスを着実に進める

2

注力分野での事業推進

モノづくり

- 顧客の作業環境改善のため低ミスト型油剤の展開強化
- 液切れ性能の大幅向上による環境対応製品の拡大

クレンリネス

- ガラスコーティング建物・施設向け用途に加え鉄道車内外向け製品の採用が大幅拡大中
- 洗濯槽クリーナーはOEM先とのタイアップで海外へ

キー・
マテリアル

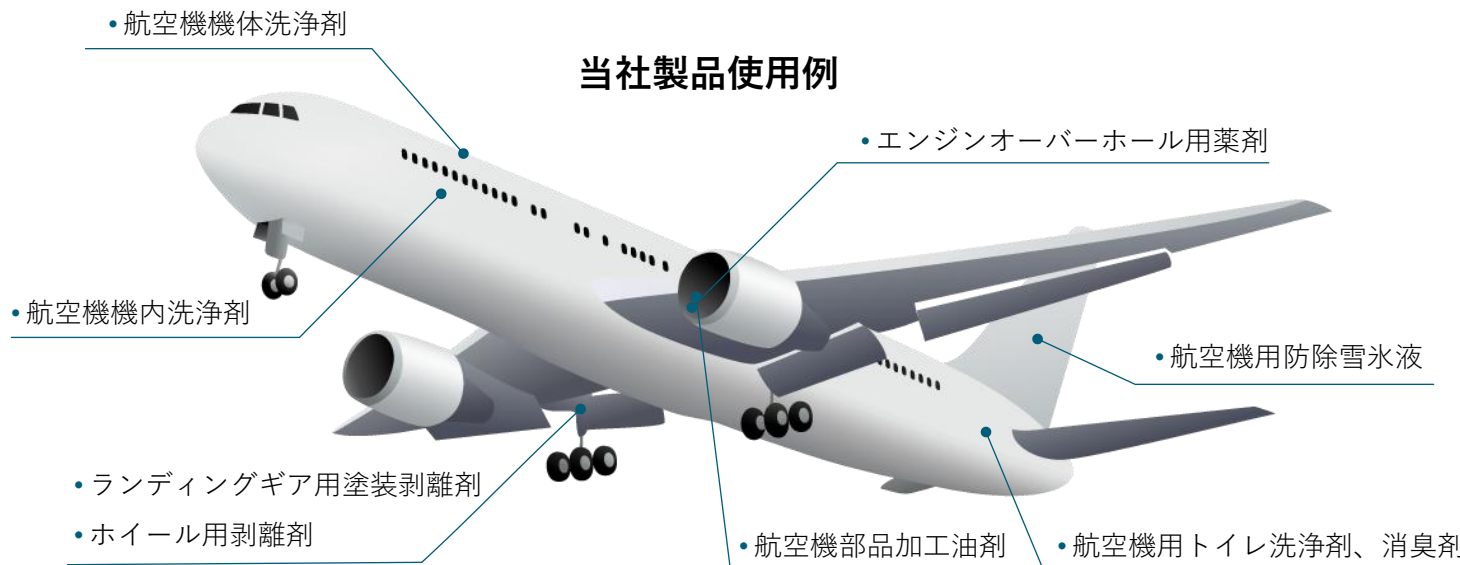
- 自己修復性素材は添加剤用途の実績例が大きく増加
- 光触媒ソリューション製品が防カビ用途で食品工場で採用

3

サステナビリティの推進

- 各拠点へのKPI設定のカバー率が増加し、次期中計で目標展開に目途へ

● 日本・米州・欧州・アジアを中心に販売拡大推進中



日本

- 航空機洗浄剤
 - 金属加工油剤
- ➡ 採用拡大

米州・欧州

新規認証油剤増加

アジア

代理店網拡大

- 液切れ性能向上による環境対応製品の拡大
- 低ミスト型油剤の展開強化

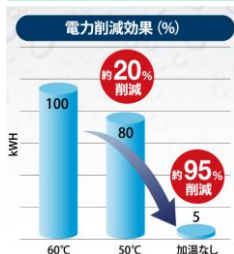
CO2削減製品

常温洗浄洗浄剤

液切れ性能を付与させることで、乾燥のための加温が不要

【効果】

- 1.乾燥時間を短縮
- 2.エアブローの負荷低減
- 3.洗浄剤温度の低温化が可能



作業環境改善対応製品

低ミスト型油剤

高効率加工を行うことで発生するミストが引き起こす課題を改善

【効果】

- 1.作業環境の改善
- 2.空調設備の電力使用量削減
- 3.換気・清掃などの作業軽減

REVOSシリーズ

新製法対応製品

ギガキャスト 関連製品



自動車部品の新製法対応

車体加工分野への参入

サステナブル貢献製品

バイオマスマーク 認定商品

バイオマスマーク認定商品
(2製品) の展開
(近日販売開始)



バイオマス
使用部位: 油剤
No.250088



バイオマス
使用部位: 油剤
No.250089

少量塗布 DC*離型剤

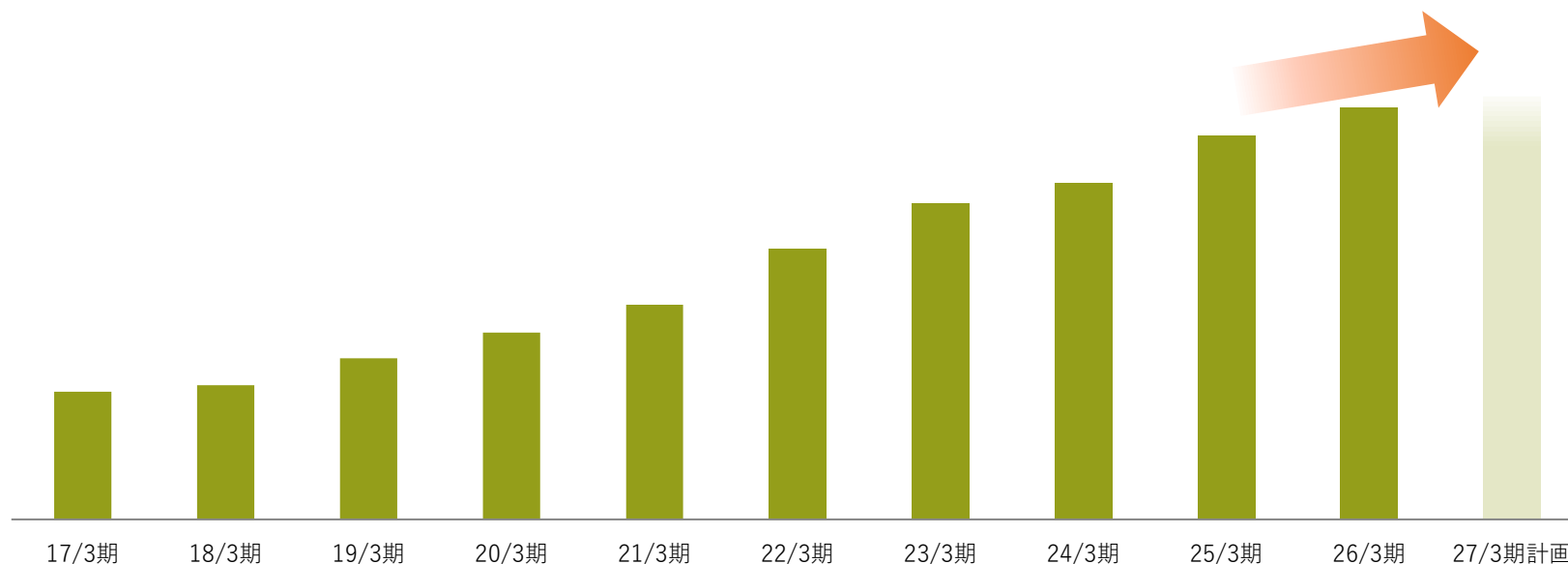
離型剤の使用量低減
※DC = ダイキャスト (アルミ casting)

床向け ガラスコート

被膜寿命向上、作業頻度減少

- 洗濯槽クリーナーはOEM先とのタイアップで拡大

洗濯槽クリーナーの売上高実績と計画



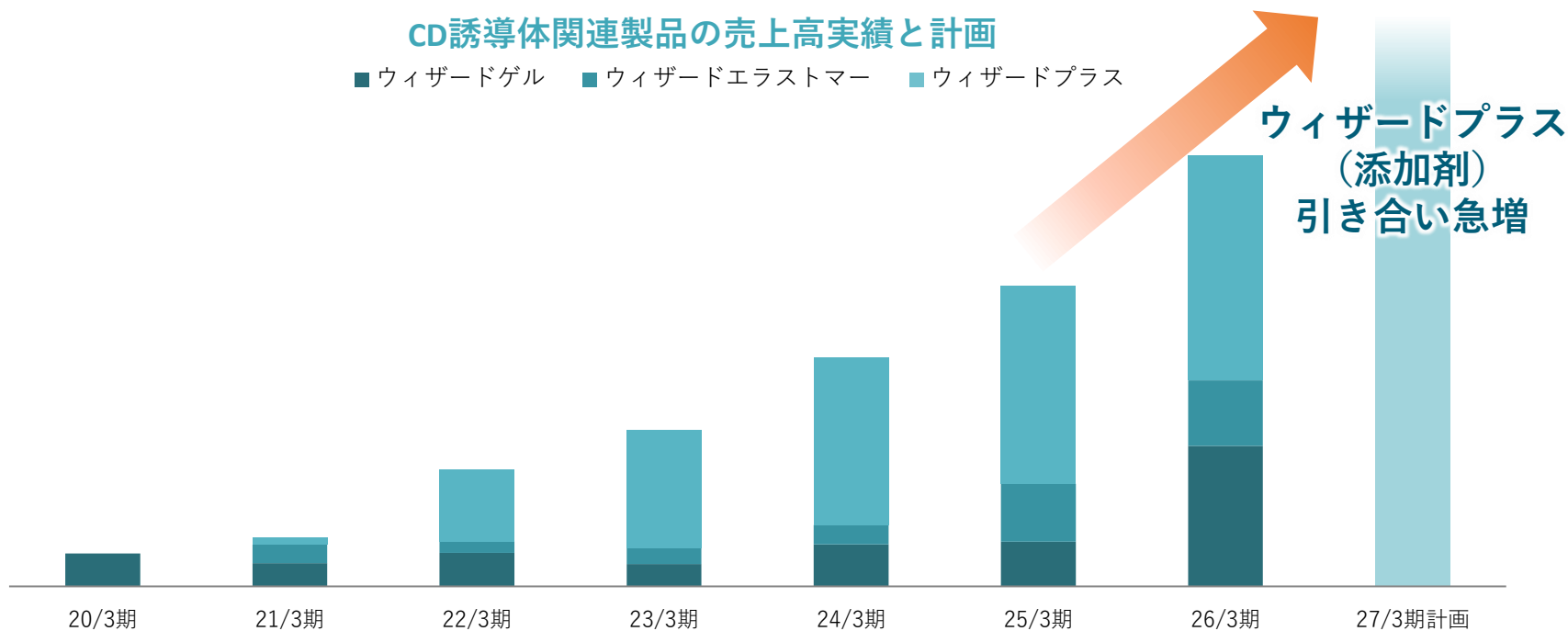
戦略

- 家電メーカー業界の洗濯槽クリーナーの認知による底上げ
- 衛生面に対する意識の維持によりリピート需要
- OEM先との戦略共有

● CD誘導体関連製品は、順調に推移

CD誘導体関連製品の売上高実績と計画

■ ウィザードゲル ■ ウィザードエラストマー ■ ウィザードプラス



ウィザードゲル

- 切断傷も修復可能な水分を含む柔らかな材料
- 型に注ぎ、あらゆる形に成形が可能



ウィザードエラストマー

- 紫外線で硬化可能
- 溶媒を含まないゴムライクな材料
- 光造形方式の3Dプリンターにも適用可能

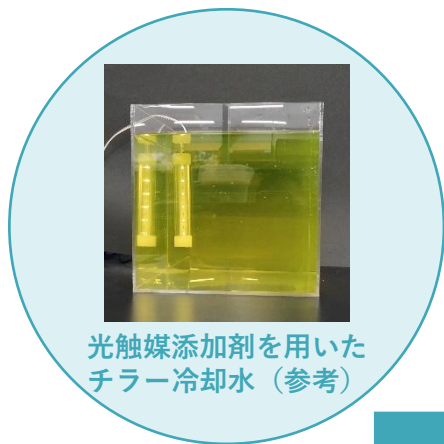


ウィザードプラス

- 樹脂材料の少量配合
- 耐久性・伸縮性の向上に寄与
- アクリル・エポキシ・ウレタンなど様々な樹脂に配合可能

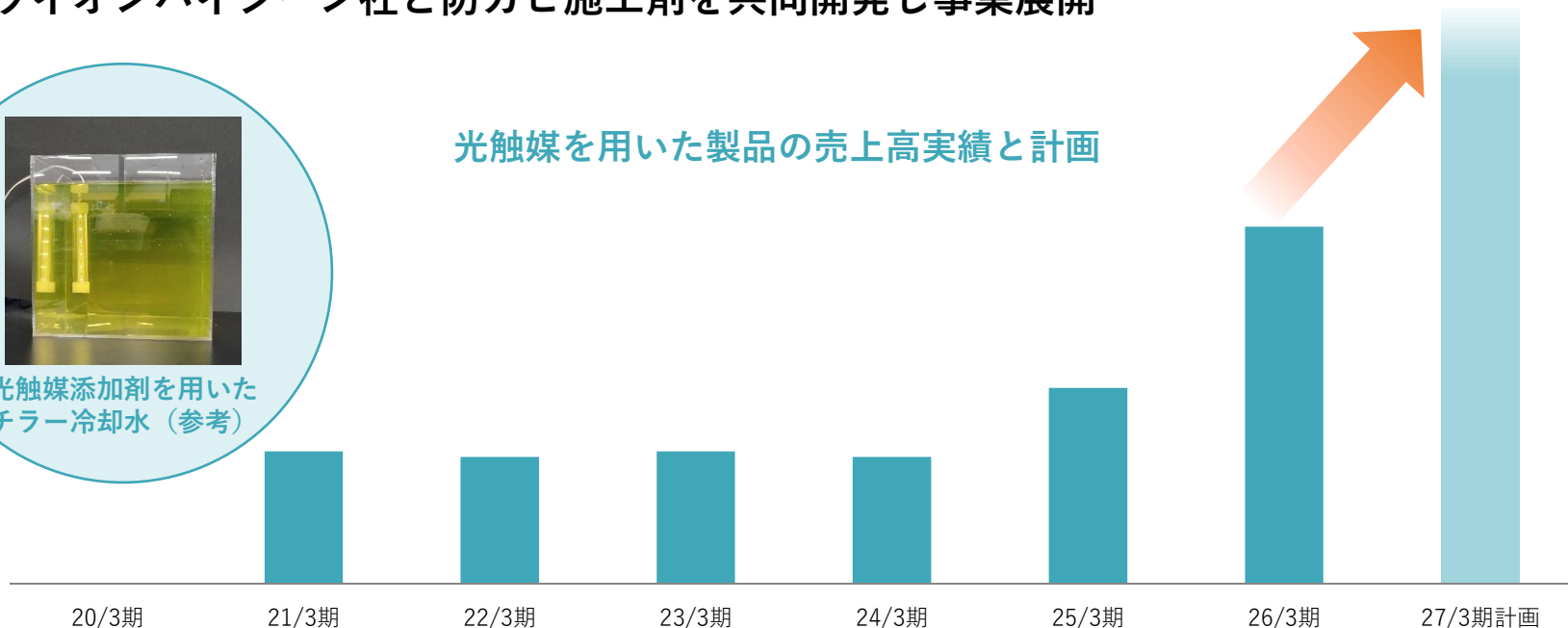
※CD誘導体：当社合成技術を加えた化学反応性のシクロデキストリン（CD）の意。CDは植物由来の原材料

- 除菌消臭剤の「ぴきゃみん」シリーズに加え、「光触媒」ラインナップ拡充
- 防コケ・防カビ用途製品の国内大規模テーマパークで採用
- 食品関連工場でのチラー冷却水用 光触媒添加剤の展開
- ライオンハイジーン社と防カビ施工剤を共同開発し事業展開



光触媒添加剤を用いた
チラー冷却水（参考）

光触媒を用いた製品の売上高実績と計画



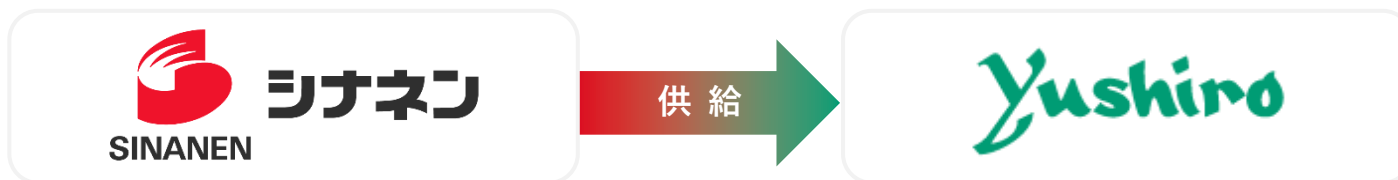
採用実績

- 「ぴきゃみん」：一般消費者、レストラン、レジャー施設など
- 「おそとのぴきゃみん」：国内大規模テーマパーク
- 「チラー冷却水用 光触媒添加剤」：食品関連工場

- 当社サステナビリティ基本方針に基づきESG関連データを整備
- 2025年度より、再エネ電力の購入、自家用太陽光発電設備投資を実行

分野	KPI・項目	分野	KPI・項目
環境	<ul style="list-style-type: none"> ●CO₂排出量 ●ベースオイルに占める非石油由来原料使用 ●各種法規制逸脱指摘件数 	化学物質	<ul style="list-style-type: none"> ●政府指摘件数 ●政府報告件数
安全	<ul style="list-style-type: none"> ●労働災害件数 ●リスクアセスメント実施件数 ●安全衛生委員会開催件数 ●過去災害事例等を用いた教育の回数 	贈収賄・ 腐敗行為 防止	<ul style="list-style-type: none"> ●贈収賄・腐敗行為防止に関連する重大な法令違反件数 ●従業員へのビジネス・コンダクト・ガイドラインの周知回数
品質	<ul style="list-style-type: none"> ●工場責任者会議開催件数 ●品質監査実施回数 ●全社責任者会議での品質関連テーマ報告件数 ●顧客満足度調査評点 	人権	<ul style="list-style-type: none"> ●女性従業員比率 ●年次有給休暇取得率 ●差別・ハラスメントに関する教育：教育・研修件数 ●ストレスチェック実施人数

- エネルギーソリューションを提供するシナネン株式会社が供給する
実質再生可能エネルギー比率100%の電力を当社3拠点で使用



再生可能エネルギー由来100%の電力

実質再生可能エネルギー100%導入拠点



2025年4月
神奈川テクニカルセンター



2026年4月
名古屋支店



2026年4月-
浜松営業所

非化石証書を含む温室効果ガス
排出量の年間削減効果

約 **448トン** (見込み)

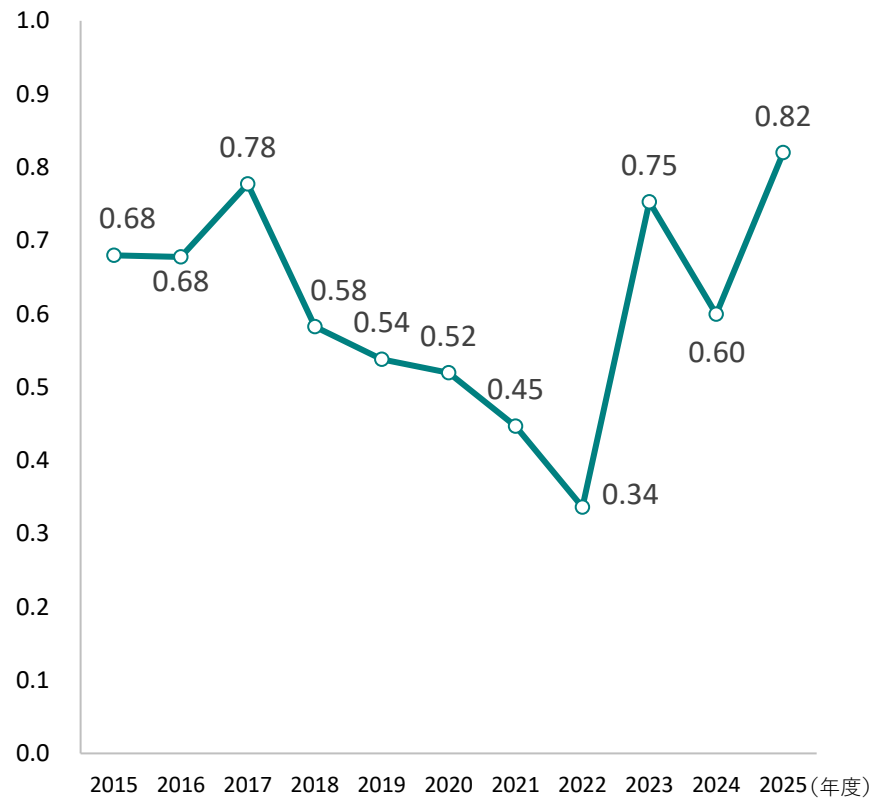
- 成長・維持および更新に対する投資や、株主還元および財務体質の強化に充当
- 2年間で、計画の6割強を実行



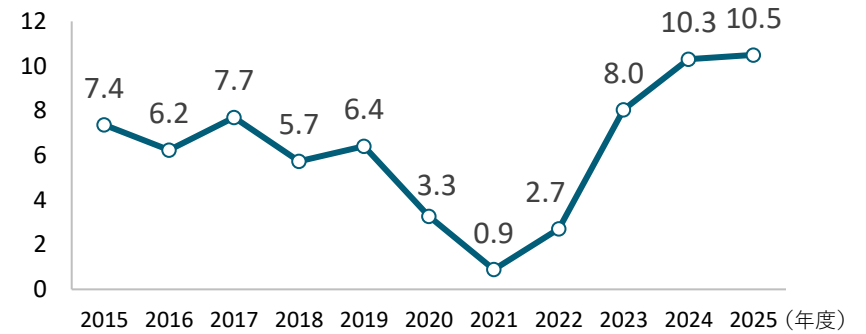
企業価値向上に向けた取り組み（現状分析）

- PBR1倍割れの状況が継続しており、資本コスト(WACC)を上回るROE水準を安定的に維持できていないことが要因であると認識

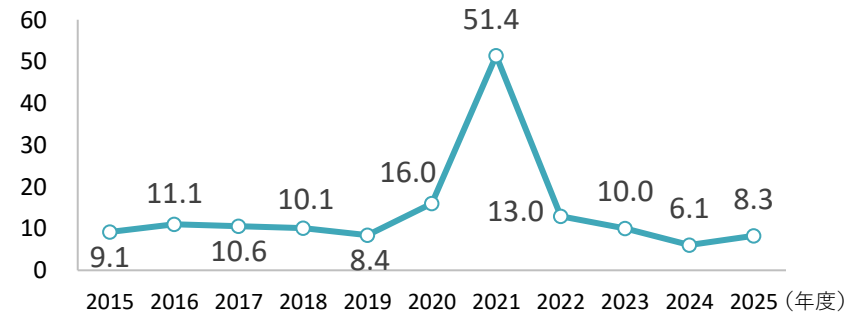
PBR (倍)



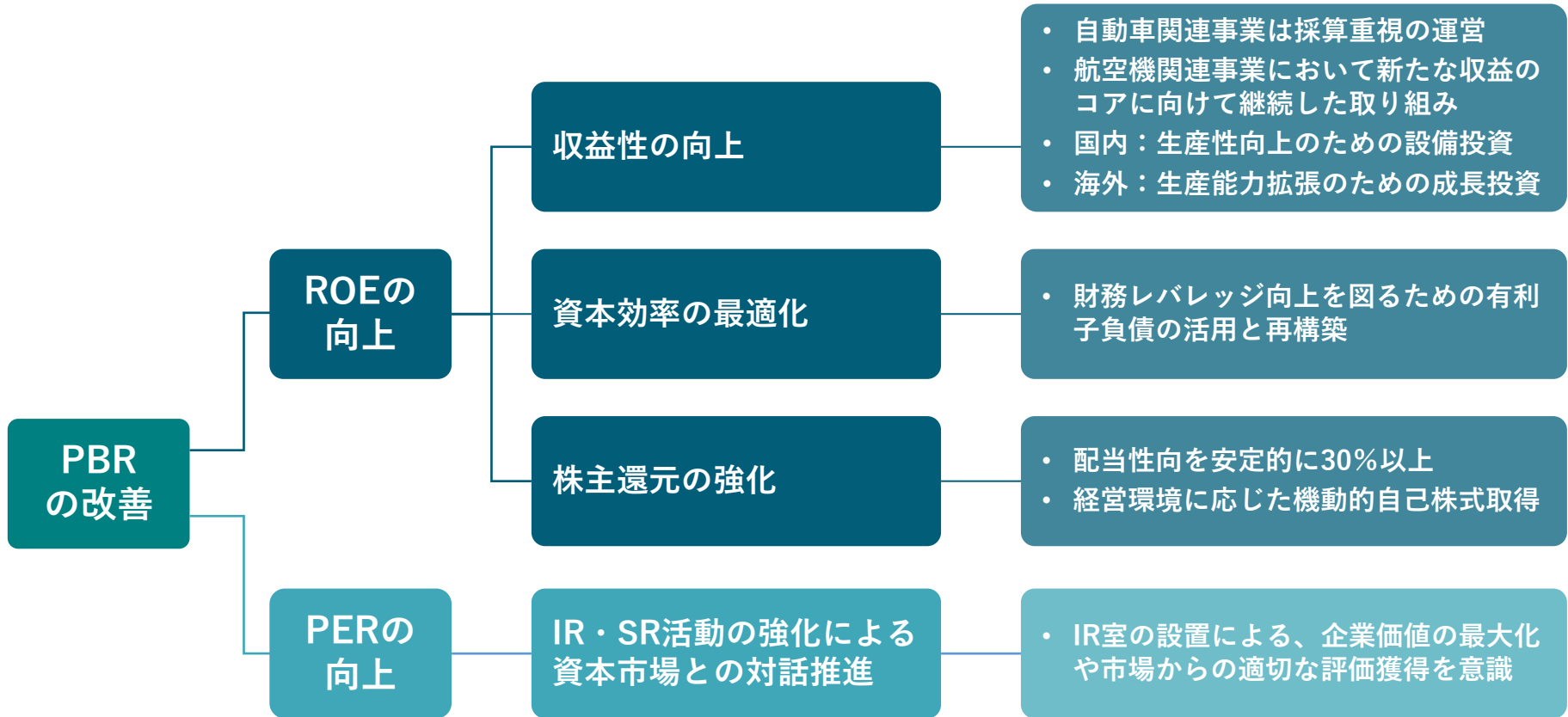
ROE (%)



PER (倍)

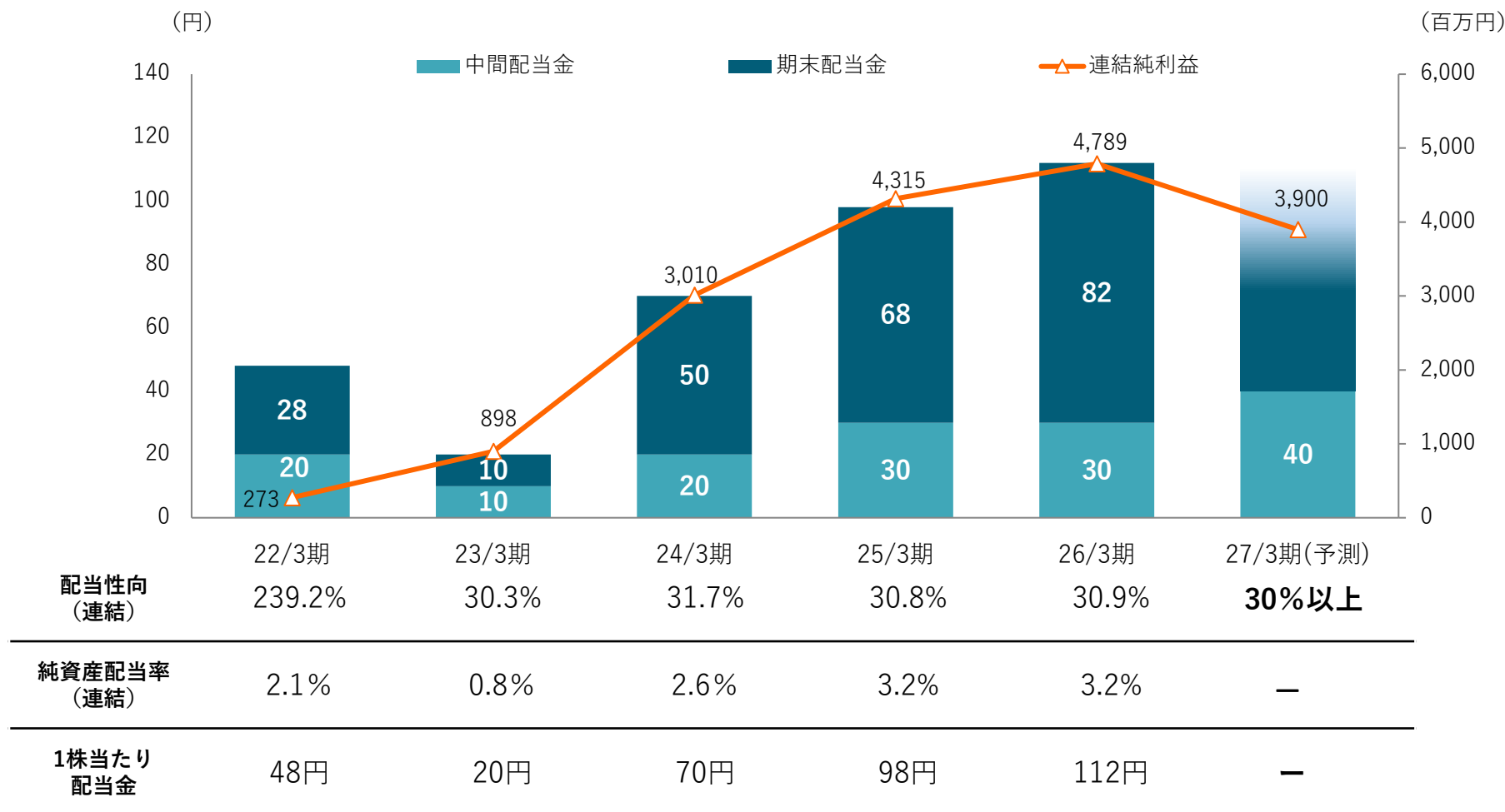


- 中期経営計画の着実な推進により経営目標の達成を目指すとともに、ROEとPERの向上に資する課題への対処を強力に進める



- ROEは安定的に10%以上の確保を目指す
- 同時にROEがWACCを上回るエクイティスプレッド拡大の取組の推進

- 27/3期通期の配当金は現時点では未定も、中間配当は40円とする



參考資料



(百万円)

	15/3期	16/3期	17/3期	18/3期	19/3期	20/3期	21/3期	22/3期	23/3期	24/3期	25/3期	26/3期
売上高	29,061	30,680	29,605	31,565	35,170	37,274	31,661	37,686	46,794	52,985	55,512	51,165
営業利益	1,569	2,169	2,437	2,502	2,076	2,213	1,095	894	1,049	3,619	5,068	4,489
経常利益	2,521	2,947	3,017	3,243	2,634	2,718	1,517	1,543	1,442	4,628	6,096	5,671
当期純利益	1,703	1,993	1,697	2,228	1,724	1,913	978	273	898	3,010	4,315	4,789



当資料取扱い上の注意

当資料に記されたユシロの現在の計画・見通し・戦略等のうち歴史的事実でないものは、現在入手可能な情報から得られたユシロの経営者の判断に基づいた、将来の業績に対する見通しであります。従いまして、これら業績の見通しのみにも全面的に依拠されることは控えるようお願いいたします。実際の業績は、様々な重要な要素により、これら業績見通しとは大きく異なる結果となり得ることをご承知おき下さい。

実際の業績に影響を与え得るリスクや不確定な要素には、以下のものが含まれます。

- ① ユシログループの事業環境を取り巻く世界情勢
- ② 世界の原油価格動向
- ③ 米ドルを中心とした為替レートの変動
- ④ 偶発事象 等

ただし、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。また、リスクや不確定な要素には、将来の出来事から発生する重要かつ予測不可能な影響も含まれます。当資料は、あくまでユシロをより深く理解していただくためのものであり、必ずしも投資をお勧めするためのものではありません。

